



〒660-0051 尼崎市東七松町2丁目5番67号 Tel(06)6481-5351 Fax(06)6481-5352 <http://www.ama-net.ed.jp/school/J03/index.html>

2年生トライやる・ウィーク

2年生は、9月19日から土・日曜日をはさんで26日までの5日間、トライやる・ウィークを行いました。商店や学校、医療機関など様々な職種に携わり、貴重な体験をすることができました。これはPTA執行部や第2学年保護者の方々のご尽力があったからこそ実施できました。本当にありがとうございました。

さて、体験後の感想を掲載したいと思います。1つめは、尼崎市立七松保育所で体験した2年4組中村陽奏さんと保護者の方の感想です。

〈生徒感想〉

最初はとても緊張していて不安でいっぱいだったけど、保育所の子どもたちになついてきてくれたり、先生方が優しく接して下さったおかげでなじむことができ、とても楽しくて充実した5日間になりました。先生が優しく、時には厳しく子どもたちと真剣に向き合っている姿がとても印象的だったよかったです。今回トライやる・ウィークで学んだことはこれからの学校生活にも活かせるようにします。とても良い経験になりました。



〈保護者の方の感想〉

もともと小さな子どもと接することが大好きで家族の中でも姉ということもあり、いつも上手に接しているので、保育所でも同じようにしていたのかな？と想像がつかます。話を聞いていてすごいなあと感じることもあったので、この5日間で陽奏にとって得るものがあったのではないのでしょうか。お疲れ様でした。そして、この機会を与えていただきありがとうございました。

2つめは、阪急阪神百貨店で体験した2年3組山川夕依さんと保護者の方の感想です。

〈生徒感想〉

普段できない仕事やお店の裏側を知れてすごくワクワクした。機械を使って袋に詰めたり、ラップしたりして楽しかったし難しかった。事業所の人達がすごく優しくて安心した。少しの工夫ですごくきれいになりすごいと思った。忙しくて大変だったけど、誰かのためと思うと楽しくできるということがわかった。



〈保護者の方の感想〉

何もかも初めての体験で毎日楽しそうでした。家に帰ってからもその日の出来事を話してくれました。同世代の仲良しの子たちと過ごすのとは違い、大人の中でする仕事は、新たな発見がたくさんあった様で良かったです。

1年生宿泊学習

1年生は9月20日(木)から一泊二日で、兵庫県養父

市のハチ高原へ宿泊学習に行ってきました。実行委員を中心に準備し、「THE中央FRIENDS～友情の絆を深めよう」のスローガンのもと取り組んできました。

1日目の山登りでは、あいにくの雨と霧で景色がほとんど変わらない中、「いつになったら頂上に着くのだろう」と、折れる気持ちをぐっとこらえて、ほとんどの生徒が頂上に到達しました。晩ご飯ではみんなで鴨鍋をおいしくいただきました。食後の「夜レク」では実行委員が準備した「トムとジェリー」や「クイズ」、最後は実行委員と有志が「U.S.A.」のダンスも披露し、大いに盛り上がりしました。

2日目は飯ごう炊さんによるカレー作りをしました。かまどに火がおこせない班もあったり、炊けたはずのご飯が固かったり、と色々ありましたが、みんなで協力して作ったカレーは格別だったと思います。あるクラスの実行委員は、「この宿泊学習を通して、自分から行動する人が増えた」と感じたそうです。また、他にも「時間を守り、自分の仕事を果たすことの大切さを改めて学んだ」という人もいました。この体験をこれからの学校生活に活かし、成長して欲しいと思います。

次に2人の生徒作文を紹介します。

〈1年4組重松悠介さんの作文〉

僕はこの宿泊学習で二つのことを学んだ。1つ目は友だちの大切さです。僕は左足小指を骨折しながらの参加でしたが色々な人が助けてくれたおかげで無事沢山の行事に参加することができました。上堀内君は特に荷物を持ってくれたり肩をかしてくれたりしました。(中略)改めて友だちの大切さというものを感じました。2つ目は集団で生活するという大変さです。僕の班や部屋には色々な個性豊かな人がいました。(中略)そんな中で生活するのはとても良い経験になりました。迷惑をかける人にはどのように注意をすれば良いのか、おとなしい人はどのように盛り上げるべきか、など色々なことを考える機会になりました。



〈1年2組林滄茲さんの作文〉

半日バスに乗ってやっと待ち望んだ目的地に着いた。昼食後、私たちは高丸山に登った。登り始めたとき、皆自信满满だったが、だんだん山道が険しく、山の空気は冷たく白い霧が立ち込め、登るのがしんどくなってきました。日本に来て体調があまり良くなく、ますます山の環境になじまなくなってきました。のどが乾いたのに水筒を忘れてこれからの道がますます不安になり無理だと思いました。ついに途中で諦めることを選びました。今思えば少し残念でした。次回はしっかり準備をして、日頃から体を鍛えて、中途半端なことはしないようにしたいです。(後略)